

1

団体・活動プログラム紹介



間伐作業（間伐ボランティア「札幌ウッディーズ」）

森林ボランティアとは

近年、地域の特性や要望にあったかたちで、森林を整備し、利用するために、市民参加による森林づくり活動が注目されています。この具体的な展開として、「森林ボランティア」という活動があります。森林ボランティアの定義はさまざまですが、ここでは「一般市民の参加により、造林、育林などの作業（森林や林業に関する普及啓発活動として行うものを含む）を、ボランティアで行うこと¹」とします。林野庁のまとめによると、こうした団体は全国に1,165団体あり、道内にも119団体が存在します（2003年10月現在）²。

森林ボランティア団体の活動領域は、実践を中心に多岐にわたります（図1）。この章では、森林ボランティアが道内外でどのように展開されているのかを紹介します。

実践（森林ボランティアの基本）

森林や自然環境に対して実際に作業を行うこと。森林整備、生息地の保全や復活、水源地の整備など。



普及啓発

活動参加者や社会一般に対して、森林や環境に対する意識、情報などをPRすること。シンポジウム、勉強会、観察会、募金活動など。



いろいろあります！ 森林ボランティアの活動領域



林産物の活用

地域の木材を利用した家づくり、間伐材の有効活用など、森林資源の活用に取り組むこと。

調査研究

森林生態系や生物種、森林管理方法、森林と社会の関係性などについて調査研究を行うこと。

政策提言

政府や自治体などが取り組むべき森林政策の方法、進路について提言すること。

他団体の活動支援

他の森林ボランティア団体に、情報、人材などを提供すること。

図1 森林ボランティアの活動領域

:(上野ら、2002)を参考に作成。

* 1 (社団法人国土緑化推進機構, 1998)より。この定義は、森林組合などが業として営む行為を除き、漁協や社会貢献活動として企業の構成員などが自発的に行う森林づくりを含むゆるやかなもの。

* 2 対象は造林・育林作業、林内の清掃などを自発的に行う団体。普及啓発のみを行う団体は除く(林野庁, 2004)。道内団体の数値は北海道庁による調査。2006年現在はこの数値を上回る団体が存在する。

森林整備に関する用語*3

人工造林

人為的な更新(伐採して樹木のなくなった場所を、樹木の生えた状態にする)手段によって目的とする森林を造成すること。

人工造林の作業の流れ(植え付け造林法)

地ごしらえ:

人工造林の準備のため、林地にある伐採木の枝条、葉や雑草木を取り除き、苗木を植え付けしやすい状態に整理します。

植え付け:

苗畑で養成した苗木を造林地に植え付けます。春植えと秋植えがあり、苗木が開葉する前の春季に行う春植えが一番安全とされます。

下刈り:

植栽した苗木の成長を助長するため、雑草や灌木を刈り払います。植栽後一定期間(苗木が雑草木の1.5倍の高さに成長するまで)植栽木の成長最盛期(6~8月)に行います。

つる切り:

幹をしめつけたり、光を遮るといった害を防ぐために、林木に巻き付いたツル類を切り離します。

除伐:

下刈り終了後、植栽木の成長を妨げる侵入木を切り捨てます。植栽木の枝葉が繁茂して林冠が閉鎖する(互いに近接して光が遮られる)までの間に、植栽木であっても被害木、不良木を切り捨てます。

枝打ち:

林冠が閉鎖して下枝が枯れ始めてから以後、枯れ枝や生き枝の一部を切り落とします。主に節のない完満な(幹の上部と下部の直径の差が小さい)良質材の生産のために行い、林内の風通しをよくし、森林火災防止、病虫害の防止なども目的とします。

間伐:

林の立木密度を下げるために木の本数を減らします。間伐は、形質良好な残存木の成長を促進することが主要な目的です。林冠の閉鎖後、数年が経過すると木の直径成長は低下してくるので、形質良好な木の成長を阻害している木や形質のよくない木を主体に伐採します。

なお、アマチュアによる主伐(収穫のための伐採)は危険を伴い困難とされます。

天然更新

植栽などによらず自然に散布される種子や樹木自身の繁殖力や再生力よった更新。

萌芽更新:

クヌギ・コナラ林などで行われる天然更新の1つで、伐採後に切り株から成長を始めた萌芽を育てて更新する方法。その後は、萌芽した枝の中から発生位置のよい優勢なものを1株に3~4本残し、残りは「芽かき」をします。薪炭材やシイタケ原木の生産では皆伐萌芽更新が一般的で、10~15年のサイクルで皆伐が繰り返されてきました。

里山林

集落地近くに広がり、薪炭林として堆肥用の落葉、キノコ、山菜の採取などを通じて、地域住民によって維持、管理されてきた森林のこと。落葉広葉樹林、アカマツ林のほか、スギ、ヒノキなどの人工林を含む様々な森林から構成されています。



地ごしらえ*4



植え付け*4



下刈り*5



間伐*5



里山林での活動*6

*3 (北海道林業普及協会, 2001; 東京農工大, 1987; 文部科学省, 1993)

*4 いしかり森林ボランティア「クマゲラ」

*5 間伐ボランティア「札幌ウッディーズ」

*6 ふどうの森クラブ(伐採木を利用したキノコ栽培)

チェーンソー伐木技術研修



北海道札幌市清田区

§ 北の里山の会

2000年、都市近郊林保全に関するワークショップに携わった造園・緑地計画分野のコンサルタント有志を中心に発足。「大人の林間学校」をテーマに、森林の手入れや観察、木工、野外料理などの「森での遊び」を通じて、森との上手なつきあい方を見つけていくことを目指している。会員数90名(2004年度)。

チェーンソーによる伐木を基礎から習得

激しい風雨は昨夜でおさまり今日は朝からさわやかな快晴です。
有明^{ありあけ}のフィールドでは、造林地に混じる広葉樹の葉が赤や黄に色づき始めています。今日は会主催「第1回技術研修会」で、札幌市森林組合から講師を招き、チェーンソーの扱い方、伐木の方法などを学びます。これまで会では、伐木は手鋸を使うほか数人のメンバーが経験的にチェーンソーを使用していました。今回基礎から技術を習得して皆が安全にチェーンソーを使用できるようにして、活動の幅を広げたいとこの研修会を企画しました。今日は会員以外の参加者もあり、昼食に芋煮会のお楽しみもあります。

会場は林内の散策路につながる広場です。挨拶の後、早速資料が配られ、講師増田さん、遣水^{やりみず}さんのお二人より、チェーンソーのエンジンは使用者皆が同じ方法で始動させること、キックバック^{*2}や待避遅れの危険、かかり木処理は確実にすることといった要点が解説されます。ついで伐木の実演があり、実技研修として全員がチェーンソーで玉切りを経験します。

簡単そうに見えた操作ですが、緊張した初心者はアクセル不足のままチェーンソーのバーを木に押しつけてしまったり、機械を十分保持できずバーがぐらぐらしてしまったり。しかし助言を受けながらも、自分の手でたちまち木が鋸断できることにはちょっとした感動があります。安全に留意しながら、回数をこなして徐々に機械に慣れることが大切なようです。一方、経験者はどんどん円盤をつくります。丸太の小口にチェーンソーで放射状に切れ目を入れてカラマツのキャンドルもできあがりました。

日程 : 2002年10月11日

挨拶・日程確認	10:10
研修	10:15
昼食	12:50
ベンチづくり	13:35
アンケート記入	14:30
次回連絡	14:45
解散	15:00

参加者14名

当日の分担・配置

会員：研修、ベンチづくり
代表：進行、日程確認、出欠確認
講師：札幌市森林組合（技術指導、機械・道具調達）

使用した主な道具、物品

鋸、鉋、チェーンソー、木登り用具、目立て用具、調理用具



ツルを残すと伐倒方向が定まります。



玉切り作業の実技研修。



カラマツキャンドル。

* 1 有明おくいずみ都市環境林。市有林6.3ha。会では主に40年生カラマツの間伐、ササ刈りなどを実施。

* 2 走行中のソーチェーンが木材や障害物に当たってガイドバーが跳ね上げられること（労働省，1998）。

チェーンソーの刃の目立て

安全で能率良い作業のために重要なのがチェーンソーの点検と整備です。今回はソーチェーンの目立てを教えてくださいました。目立てではチェーンソーを固定し、丸やすりは、やすりと手、腕が直線になるようにもち、カッタに密着させてまっすぐふらつかないように押します。刃をこする回数を決めて全てのカッタを均一に研ぐことがポイントです。目立ての終わったチェーンソーで再度玉切りを試みたメンバーからは「刃の食い込みの感じが全然違う」との声もあがります。

今回は高所の枝打ちを行うための枝打ち鋸や木登り用具の紹介もありました。木登りでは、交互に腰と足に体重を移動させることで幹に取り付けたベルトをずらしシャクトリムシのようにして上へ登ります。「意外と楽だね」「美容体操にもなりそう」とメンバーはすぐにコツをつかみ、すいすいと木に登っていきます。

昼食は山形県から取り寄せた材料で芋煮会です。会の野外料理はレパートリーも幅広く、活気ある活動に欠かせないものとなっています。皆で焚き火を囲み具沢山のお汁を味わい、和やかな時間が流れます。

午後のベンチづくりでは、講師のお二人に丸太をチェーンソーで2つ割りにしてもらい、メンバーは脚部となる材の玉きりを行います。できたベンチを焚き火の四方に配置すると、広場はすっかり憩いの空間に！浜田久美子さんを迎える次回の例会にむけ、これで活動場所の準備もばっちりです。最後に次回の準備を確認し、活動は終了しました。



「やすりはまっすぐ押して」「ピリヤードの感覚だね」



木登りをして枝打ち体験。

浜田久美子さんを迎えて

会では当年11/30～12/1に、フリーライターの浜田久美子さんを迎えて講演会と例会を行いました。講演会では「森の体験を日々のものにする」をテーマに、浜田さんの実践や取材に基づいて、都市住民が山村の森林整備に取り組む意義や鎌倉の谷戸での野外保育の事例が紹介されました。

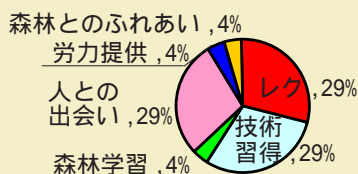
翌日のフィールド活動では、皮むき器で樹皮を剥き今回つくったベンチの仕上げをしたり、技術研修会の成果を試して間伐をしたり。浜田さんも現場のいでたちで参加し、メンバーと一緒に作業を進めました。お昼は北海道名物のジンギスカンで、にぎやかに交流会を行いました。



樹皮を剥く浜田さん（中央）

参加者の声から

参加目的は（複数回答2,N=24）？



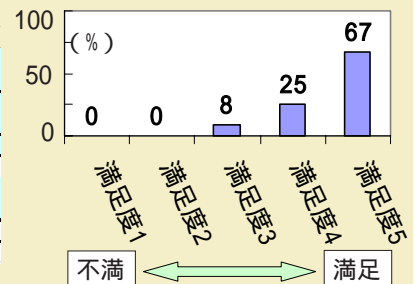
「道具を増し、作業の効率化を図りたい」
 「初めてチェーンソーの扱いを教わり勉強になった。より高度な技術を習得したい」
 「指導できる人材をもっと育てたい」

当日はレク、技術習得、人との出会いを目的とする参加者が多く、8～9割の参加者が中程度より高い（4以上）達成感、満足感を得たことがわかります。

今日の目的達成度は（同左）？
 [5段階評価]

項目	達成度	人数	(%)
レク	4	2	8
技術取得	5	5	21
	4	5	21
	5	2	8
森林学習	4	1	4
人との出会い	3	2	8
	4	2	8
	5	3	13
労力提供	2	1	4
森林とのふれあい	2	1	4
合計		24	100

今日の満足度は（N=12）？



目的達成度4以上比率：83%
 当日満足度4以上比率：92%

クリーンウォーク

§ カッコウの里を語る会

1998年、道路の拡幅問題をきっかけに自然環境保全に関心を持つ^{ときわ}常盤地区住民有志によって発足。自然や環境を考えたまちづくりを目的に、当地区周辺の森や川に焦点をあて、協定林(国・市)での育林作業、登山などのイベント、地区内の学校教育と連携した環境教育などを実践。会員数45名(2004年度)。



北海道札幌市南区

芸術の森周辺の森をきれいに

クリーンウォーク(ゴミ拾い)は、札幌芸術の森周辺の森林に見られる大量の不法投棄を何とかしたいと、会が発足して最初に取り組んだ行事です。以来、「芸術の森クリン・クリン・ウォーク」の名称で毎年継続し、今日は5周年記念行事にあたります。今日は同地区で活動する「アートパーク生ゴミ減らし隊」、芸術の森の職員の皆さんも作業に参加します。開会式では、会長から「ゴミのない森林は美しいもの。ウォークを通じて環境学習の輪をひろげていきましょう」と挨拶があり、事務局からは「自動車に十分注意して安全に作業を進めてください」といった呼びかけがあります。今回は、昨年のウォークが雪で中止となったため2年ぶりの開催で、ゴミの状況が気になるところです。子どもも大人もビニル袋を手に出発です!

コースは札幌市立高専前から芸術の森3丁目まで、芸術の森を取り巻く道路約3kmです。メンバーは縦列になって、道路とその沿線の森林のゴミをくまなく拾います。出発地付近で見つかるのは、主にペットボトルや缶、食べ物の包装紙や吸殻など街路のゴミです。歩道脇の芝生や、車道と歩道間の落ち葉の吹き溜まりの中にこれらのゴミが隠れています。

「あったぞー!」、「そんなに集めて、やっぱり目がいいねー」とゴミ拾いに対するメンバーの意気込みには、ちょっとした競い合いの雰囲気すらあります。「まだゴミを1個も見つけてない」との子どもの声に、「ゴミはないほうがいいんだよ」とお母さんが答えます。やがて道路の両脇に民家が途切れ、コースが森へと進むにつれ、袋に詰めた空き缶、ゴミの詰まったダンボール箱など、計画的に梱包、投棄された大きなゴミが増えてきます。

日程

: 2003年10月12日

開会挨拶・日程確認	9:40
作業開始	9:50
休憩	11:25
作業再開	11:35
アンケート記入・休憩	12:15
閉会挨拶・感想発表	12:35
解散	12:40

参加者27名

当日の分担・配置

会員：ゴミ拾い

役員：進行、日程確認、物品調達、休憩準備(お茶など運搬)、市清掃局への連絡

使用した主な道具、物品

ゴミ袋、火鉢、受付テーブル



紅葉の美しい森にもゴミが隠れています。



コースが森に入るとゴミが増え始めます。

「ゴミ銀座」の大量のゴミを掃除

会が「ゴミ銀座」と呼ぶ芸術の森の裏手の界隈は、道路の片側が天然林の急傾斜地になっています。不法投棄をする人は、待避所や路肩が広い所に駐車をして、運搬してきたゴミを沢へと投げ落とすらしく、こうした箇所には特に多くのゴミが見つかります。林内からはビデオデッキや冷蔵庫などの家電、筆筒などの家具、タイヤなどのほか、事業者の投棄と思われる様々な資材も見つかります。「いやぁ、すごいわ」と、メンバーは驚きと犯人の無責任さを口にしつつも、道路と沢を往復して次々とゴミを引き上げ、市の清掃局が収集しやすいように路肩にまとめます。大量の飲料容器、雑誌、ビニルなどの小さなゴミも同様に袋にまとめます。結構な運動量に、メンバーの額には汗がにじみます。

路肩に連なるゴミの山はどうやら一昨年よりずいぶん多いようです。「それでもこれだけのゴミを取り除けたと思うと逆に爽快」「不法投棄禁止の旗はもっと目だったほうがいいね」といった声もあがります。

予定時間を1時間近く超過して作業は終了。子どもたちも今日の体験でゴミを拾う習慣が身につけ始めたようです。ゴミのない森、まちづくりに向けて、地道な実践の大切さを皆で実感しあった行事となりました。



パソコンのディスプレイも。



集めたゴミの山は10カ所以上。

常盤の歴史に触れる：元敷長菅原正二さんの講演会を開催

会では取り組みの原動力となる郷土への愛着を深めるため、常盤地区の歴史や文化に触れる活動も大切にしています。森林資源に恵まれていた当地区は古くから林業が盛んで、多くの人々が農業の傍ら、家計を補うため造材現場で働いて収入を得てきました*1。

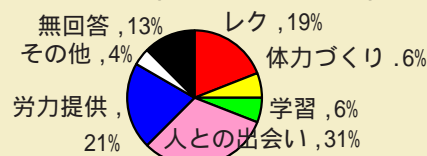
今回のクリーンウォークの前日は5周年記念行事として、林業の熟練者である菅原正二さん(91歳：取材当時)を迎えて講演会を開催しました。林業では、玉切りを終えた丸太を山の斜面から土場まで運ぶ作業を数出しといいます*2。菅原さんはこの数出し作業の指揮をとる敷長を務めていました。当日は馬を使った運材作業の様子や山頭とのやりとりなど、興味深いお話をたっぷりとうかがうことができました。



お歳を感じさせない熱弁ぶり。さすが山仕事のベテランです。

参加者の声から

参加目的は(複数回答2,N=48)?



「不法投棄への認識は大人になってからでは遅すぎる。小学校との連携が必要」

「今日の活動には満足。しかし市民、行政(含警察)が一体となり厳しい措置を求めたい」

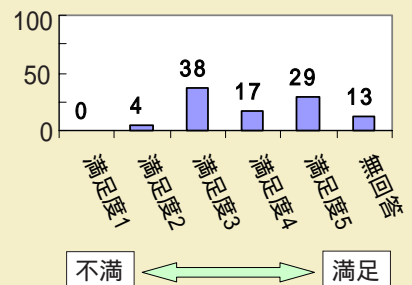
「不法投棄の実態を確認。参加の意義があった」

当日は人との出合いを目的とする回答者が最多で、約半数が高い充足感を得ていました。

今日の目的達成度は(同左)? [5段階評価]

項目	達成度	人数	(%)
レク	3	3	6
	4	3	6
	5	3	6
体力づくり	3	2	4
	4	1	2
	5	1	2
学習	4	1	2
	2	1	2
	4	1	2
人との出会い	3	6	13
	4	6	13
	5	2	4
労力提供	3	1	2
	4	3	6
	5	5	10
環境美化運動	4	1	2
職場の環境化策	5	1	2
無回答		8	17
合計		48	100

今日の満足度は(N=24)?



目的達成度4以上比率: 52%
当日満足度4以上比率: 56%

*1 札幌市南区芸術の森地区町内会連合会HP「芸森昔話」より。

*2 こうした集材作業は、他にも木寄せ、小出しなど様々な呼び方がある(林ら, 1980)。

風倒木処理・間伐



北海道札幌市南区

§ 間伐ボランティア「札幌ウッディーズ」

2001年、「森づくり技能研修会」の研修生を中心とする有志によって発足。「手入れ不足森林の間伐」を主旨に、チェーンソーなどの機械を積極的に使用した育林作業を活動の中心に据える。作業体験の指導、ツリー配布といった地域の子供達への教育活動や活動事例発表などの普及活動も実践。会員数58名（2004年度）

台風の爪痕残る林内で風倒木処理

今日は台風18号の通過直後の活動日です。当初、フィールド*1へ至る林道の通行の可否が心配されましたが、現地を気にかける会員が自主的に事前に付近を踏査。林道脇には倒木が多数見られるものの通行には支障がないこと、フィールド林内には倒木や折損木が見られること、作業時には足場や頭上への注意が必要なことなどが会メーリングリスト上で報告されました。

この情報を受け、今日は現地の被害状況の確認と風倒木処理、間伐作業を進めます。朝の打合せではメンバーを4班に分けて、特に安全に留意しながら作業を進めることを確認、また今日は会で購入したドイツ製のチェーンソーの使い初めの日でもあります。準備体操で筋肉をほぐしたところで現地へ出発！

到着した林内には根がえった木や幹折れした木、折れたり裂けたりした枝が散乱し、前回の活動時の静かなカラマツ林とは違って変わった無惨な光景がひろがっていました。目の当たりにした自然の猛威に畏怖を覚えつつも、メンバーは気を取り直して早速処理作業に取りかかります。



林内は被害木が散乱。



根がえりしたカラマツを鋸断。

道庁前庭の風倒木処理に協力

大型で強い台風18号は、当年9月8日に北海道の西海上を北上し、全道広範囲の森林や緑化樹木に幹折れ、根がえり等の被害を発生させました。この時、札幌市の道庁前庭では1,036本の樹木のうち、141本に被害が発生しました*2。当会は、道の要請を受けて9月26日に、この道庁前庭の風倒木の玉切り、市民への配布作業に協力しました。当会では、会と個人所有を合わせ8台のチェーンソーを活動で使用でき、会員6名が「チェーンソー特別教育」を修了しています（2004年）。この日の作業は面目躍如といった格好で、道からは「札幌ウッディーズなしではこの行事はできなかった」との感謝の言葉を頂きました。



市民の希望のサイズに材を切断。

日程		：2004年9月11日
挨拶・日程確認・体操		10:00
移動		10:03
作業開始		10:13
移動		12:00
昼食		12:10
移動		13:10
作業再開		13:18
移動		15:00
アンケート記入		15:10
振り返り・次回連絡		15:20
解散		15:28

参加者13名（会員11、指導スタッフ2）

当日の分担・配置
 会員：風倒木処理、間伐
 スタッフ：役員；進行、日程確認
 石狩森づくりセンター；道具調達支援、技術指導

使用した主な道具、物品
 鋸、鉋、チェーンソー、矢、トビ、フェリ
 ングレバー、ロープ、ワイヤ、ウィンチ

*1 札幌市黄金湯都市環境林、1.8ha。カラマツ61年生。

*2（道立林試，2004）

林床の倒木や落枝はチェーンソーや鋸で短く切断し、数力所に運搬して整理します。枝が絡まり中空で傾いたままの倒木は、ロープとウィンチを利用して、かかり木処理の要領で慎重に幹を動かして着地させ、完全に伐倒します。これならばいつもの間伐作業と勝手は同じと、メンバーはホイッスルとかけ声を飛び交わせながら、次々と処理を進めていきます。新品のチェーンソーの調子もなかなか良好、多量の鋸断には、やはり機械の機動力が威力を発揮します。

被害木は細い木とは限らず、当フィールドではもっとも太いクラスに当たる直径40cm程のカラマツが根がえりをしている状況も見られました*3。危険度の高い倒木を処理し終えたら、今回台風で損傷した木を対象木に置き換えるかたちで間伐作業*4を継続します。

今日は、会の技術指導にあたる石狩森づくりセンターと札幌市森林組合の職員が、風倒木被害関連の業務のため中座、欠席する中で活動を実施しましたが、市民ボランティアのチームワークで無難に作業をこなすことができました。会は発足して4年目、「会の技術が一人歩きできるレベルに達してきた（会長の言葉より）」手応えを感じた活動日となりました。



林床の倒木を整理。



ウィンチを使用した伐倒。

ナスの差し入れに感激：ご近所との交流

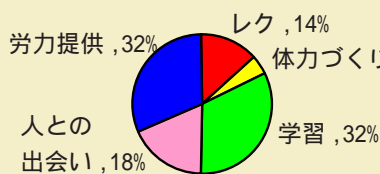
フィールドに着くと、林内の広葉樹が隣接する農地に大きく倒れこんでいるのが見つかりました。このままでは来年の農作業に支障がありそう、と会長ら1つの班はこの倒木の処理と運搬に取り組みました。これに気づいた農地の所有者さんが、午後になって作業中のフィールドを訪れ、倒木処理のお礼として、収穫したナスをメンバーの皆で分け合えるよう山ほど差し入れてくれました。所有者さんとは活動日に時折挨拶を交わすなど以前から顔見知りではありましたが、このように交流し、謝意を頂いたのは初めてのことです。



農地の倒木を整理。

参加者の声から

参加目的は（複数回答2、N=22）？



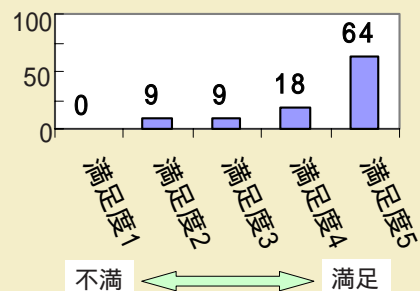
「台風の影響はすごい、自然の力は偉大」
 「風倒木処理作業が無事終了して良かった」
 「台風一過の惨状に自然のエネルギーに驚く、倒木整理後の風景と気分のすがすがしさ！」

当日は、学習と労力提供を目的とする参加者が多く、各目的について参加者のほぼ全員が達成できたとしたこと、8割が高い満足感を得たことがわかります。

今日の目的達成度は（同右）？
 [5段階評価]

項目	達成度	人数	(%)
レク	2	1	5
	4	1	5
	5	1	5
	5	1	5
	5	1	5
体力づくり	5	1	5
	4	5	23
	5	2	9
	4	1	5
	5	3	14
人との出会い	2	1	5
	4	2	9
	5	4	18
	5	2	9
	5	4	18
合計		22	100

今日の満足度は（N=11）？



目的達成度4以上比率：91%
 当日満足度4以上比率：82%

- *3 18号台風による森林被害の要因を解析した苫小牧市の調査では、南より斜面や尾根筋などの解放地といった立地、そして針葉樹は広葉樹よりも台風の被害を受けやすいこと、また、美唄市防風林の調査では、針葉樹は広葉樹よりも、そして直径が太く（樹高が高くなるほど風倒被害が起きやすいことがわかった（2004、道立林試）。
- *4 当フィールドは、現況が林分密度540本/ha、材積276m³/haであった標準地調査の結果を踏まえ、目標を450本/haとして、二又木など形質の悪いカラマツ、広葉樹の間伐を計画（60ページ参照）。

下刈り・播種



北海道石狩市厚田区

§ 石狩湾漁業協同組合女性部厚田地区

1999年、全道で展開されていた「お魚殖やす植樹運動」の一環として植樹活動を開始。コンブなど海産物の加工・販売事業の傍ら、植栽した樹木の手入れを行い、海を汚さない石けん使用の推進、地域の子ども達との清掃活動など環境に配慮した取り組みも実践。部員数44名（2004年度）。

植栽場所の手入れ

厚田地区は通年漁があり、女性部では多忙な本業の合間を縫って活動日を設けています。森林づくり活動は年に一度の取り組みですが、部の行事として定着しており、今年も厚田公園ふるさと親水広場には多くのメンバーが集まりました。今日の活動は、植栽場所*1の下刈りと播種作業体験です。

公園の一角、市有林（旧厚田村有林）に隣接して女性部の植栽場所があります。

苗は植栽して5年目、中には背丈を越す程の高さに成長している木もみられますが、林床には、イネ科草本がびっしりと繁茂しています。

下刈りに鎌をふるうメンバーの背中には、北海道の9月には珍しく、夏を思わせる日差しが照りつけます。



開始の挨拶。
漁箱を持参してメンバーが集合。



小鎌で手際よく草を刈りとります。

「お魚殖やす植樹運動*2」

森林と海とのつながりに着目した北海道漁協女性部連絡協議会が、1988年に開始した植樹活動。「100年かけて100年前の自然の浜を」取り戻すことを目的に、全道各地の漁協女性部では、森林由来の有機物の重要性など森林が漁場環境保全に与える効用について学ぶ研修会と合わせ、地道な植樹を継続しています。活動は、北海道森林組合連合会、道林務部、森林管理局といった林業関係者との連携の上、コープさっぽろ、新聞社、地域住民などの幅広い参加を得て実施してきました。その成果は、2003年末までに60万本を越す針葉樹・広葉樹の植栽実績となっています。



記念の森植樹祭（当別町）

日程 : 2004年9月16日

挨拶・日程確認	13:35
下刈り作業開始	13:40
休憩・道より全国植樹祭PR	13:55
播種作業開始	14:05
アンケート記入	14:20
挨拶・解散	14:30

参加者28名（部員21、スタッフ5、ゲスト2）

当日の分担・配置

部員：下刈り、播種

スタッフ：

石狩湾漁業協同組合厚田地区；事務局
石狩支庁経済部林務課；組織間連絡調整
石狩森づくりセンター；進行、道具調達、
技術指導

使用した主な道具、物品

鎌、スコップ、漁箱、ポット、種子（管内
山林より採取）

* 1 市有地0.02ha。1999年度にトドマツ、シラカンバ、ミズナラ各20本を植栽し、植樹・育樹活動を開始。

* 2（国土交通省HP；齋藤，2003；柳沼，1993，1999）

* 3 採取した種子から鱗片の破片や枝葉等の混合物、しいな（内容物のない種）や虫害種子などの不良種子を除去すること（文部科学省，1993）。

播種作業を体験

播種作業は女性部にとって初めての体験です。「蒔きつけ前に種子は水や風を使った精選^{*3}が必要なこと」、「ナラ類のドングリは横にして地面から3cmくらいの深さに2個ずつ埋めること」といったポイントを、石狩森づくりセンター職員が資料やパネルを使って解説してくれます。今日はチシマザクラ、エゾヤマザクラ、ミズナラ、コナラ、オニグルミ、イチヨウ、クリ、トドマツの8樹種を使用、これらの種子は既に精選を終えています。

土は、窒素分の豊かなケヤマハンノキの根元の土を使います。メンバーはポットに土を盛り、思い思いの種子を選んで埋めていきます。播種を終えたポットは漁箱に収めて持ち帰り、自宅で手入れをして成長を見守ることになります。苗木が上手く育てば、また他所への植栽に役立てることが出来ます。

「お魚殖やす植樹運動」は、「1本でも、休み休みでも」気負わずできることから森林づくりを進めようという息の長い取り組みです。当女性部では現在は新しい植栽場所の確保が難しいため、育樹作業を主眼に活動しています。なかなか大きなことはできませんが、例えば商工会広報へ掲載されるなど、女性部の取り組みが村内でも認知され、地元の中学校が植樹行事を始めるなど、地域の中で森林づくりに取り組む動きが増えてきています。



播種のポイントを解説。



土は事前に採取場所を選定しておきます。

みんなで作る第58回全国植樹祭

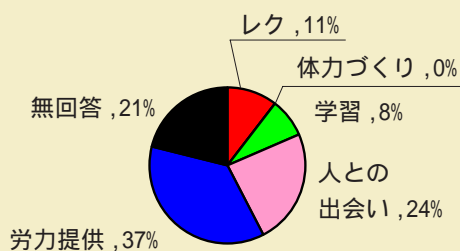
2007年に北海道で開催される第58回全国植樹祭は、「道民との協働：みんなで作る」をコンセプトの1つに掲げています。式典会場の苫小牧東部地域だけでなく北海道全体を植樹祭の舞台として、道内各地で道民が種から苗木を育て、植栽する取り組みが行われます。これを受け、今日は播種作業を体験するプログラムが組まれました。



大会テーマとシンボルマーク^{*3}。

参加者の声から

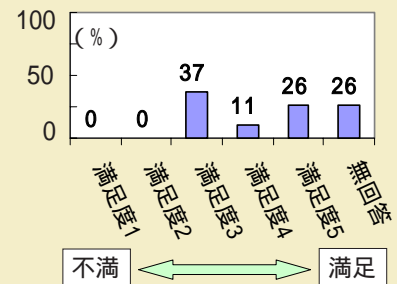
参加目的は（複数回答2、N=38）？



今日の目的達成度は（同左）？
[5段階評価]

項目	達成度	人数 (%)
レク	5	2 (5)
	4	1 (3)
	3	1 (3)
人との出会い	5	1 (3)
	4	1 (3)
	3	1 (3)
労力提供	5	2 (5)
	4	1 (3)
	3	2 (5)
無回答		28 (74)
合計		38 (100)

今日の満足度は（N=19）？



無回答が多いものの、当日は労力提供を目的とする参加者が最も多かったこと、参加者の約4割が高い（4以上）満足感を得たことがわかります。

目的達成度4以上比率：18%
当日満足度4以上比率：37%

*3 第58回全国植樹祭HPより。

サクラマス放流・補植・食体験



北海道石狩市五の沢・浜益区

§ いしかり森林ボランティア「クマゲラ」

2003年、地域課題検討委員会*1での討議を経て進められた森林ボランティア募集によって発足。「仕事7：遊び心3」をモットーに、地域の山林に手を入れて美しい森にする整備作業や、森に学び、森の恵みを体験する活動を実践。自然の大切さを市民へ伝える講習会も積極的に開催。会員数110名（2005年度）。

そか 遡河回遊魚サクラマスをお埋没放流

今日の活動は、サクラマス受精卵の埋没放流、「21世紀市民の森」*2への山取苗補植、ドングリ食体験と盛りだくさんです。会が拠点施設として利用する五の沢ふれあい研修センターには、メンバーが車を乗り合わせて次々と集合*3しました。

放流に先だって、石狩森づくりセンターの職員より「サクラマスは河川渓流域での生育期間が長く、森林との関わりが深いこと*4」受精卵の放流は経費や運搬時の手間が少ない利点があること」といった解説と手順や道具の説明があります。

放流場所の浜益区濃昼川に到着すると、まずは身支度。手袋をはめ、河水が入らないよう長靴上部をテープでしっかり留めます。グループに配布された受精卵は、孵化を目前にして目玉が動いているようにも見えます。準備が整ったところで、道具と受精卵を手に、放流に適した場所を探して渓流内を移動。川底は滑り、石に足を取られて今にも転んでしまいそうです。

適地が見つかったらグループで川底をスコップで掘り、10cm程の小石を集めて敷きつめます。これが産卵床となるので中央に塩ビ管を立てて周囲に小さめの小石を積み上げます。管に卵をそっと流し込んだら埋没はほぼ完了、管を静かに外してすぐに小石のみで蓋をします。この時に卵を潰さないこと、砂を混ぜて卵を窒息させないことがポイントでしたが、難しい！

産卵床にはコップ1杯
約1,000粒の卵を埋没。

そっと卵を流し込みます。

日程

：2004年11月6日

挨拶・日程確認	9:30
放流の概要説明	9:35
浜益区へ移動	9:55
埋没放流	10:40
五の沢へ移動	11:35
昼食	12:15
移動	13:00
山取苗採取・補植	13:15
移動	13:55
食体験	14:05
来月の打ち合わせ	15:00
アンケート記入	15:25
解散	15:35

参加者22名（会員18、指導スタッフ4）

当日の分担・配置

会員：放流、山取苗採取・補植、
コヒー・茹でドングリづくり
スタッフ：役員・事務局；進行、日程確認
石狩森づくりセンター；受精卵・道具
調達、技術指導

使用した主な道具、物品

スコップ、ゴム手袋、塩ビ管、受精卵
(15,000粒：道立水試より)、鍬、調理
器具（コト、鍋、フライパン、ポット、コヒーミル等）、
ミズナラ・ツラジ（道立水試より）

*1 石狩市林務担当、市内の農協・漁協役員などを委員に石狩森づくりセンターにより設置。森林率が約14%と少ない石狩市（2003年当時）では、市民の森林への関心を高め、市民の参加によって森林を守り育てることが重要とされた。

*2 市有林0.01ha。当会は当地の地権者を受託し、10月の植樹祭にも参加。ナナカマド、ミズナラ各30本植栽。

*3 会では会員の出席率を高め、駐車スペースを減らすため、集合、移動時にはマイカー乗りあわせを推奨。

*4 河畔林には、日陰をつくり水温上昇を抑える、魚の餌となる昆虫類やその昆虫類の餌となる落ち葉などの有機物を供給する、隠れ場をつくるといった、サクラマスの生育にとって重要な働きがある（長坂、1999、2002）。

広葉樹の山取苗を補植

五の沢へ戻り、午後は「21世紀市民の森」への補植作業です。苗木は、会で間伐作業に取り組んでいる、隣接する市有林から調達します。この林は44年生のトドマツ林ですが、風や生き物が運んだ種によって広葉樹が混じっており、そうした稚樹を掘り取って苗に使用します。林内の広葉樹は落葉のために樹種の判別が難しいものも多くあります。ミズナラ、イタヤカエデ、ミズキといった苗木20本を選び、ビニル袋に詰めて「21世紀市民の森」へ運搬、補植に取りかかります。酷暑の中、背丈ほどのササを刈り払い、地拵えから取り組んできたフィールドへの植樹は、感慨もひとしおです。



かつては後方の様なササ原でした。

ドングリを味わってみよう

食体験では、道立林試のレシピに沿い、メンバーで手分けをして調理を進めます。コーヒーの材料となるミズナラはあらかじめ渋(タンニン)を抜き^{*5}乾燥させたものを使用します。フライパンで軽く焦げ目がつくまで煎ってミルで粉末にした後は、通常のコーヒーを入れる要領でドリップします。実際に試すと粉の粒子が細かすぎて紙のフィルターでは目詰まりが起きたため、ドリップには茶こしを使いました。香川県で入手したシイ類のドングリ、ツブラジイは渋が少ないため、そのまま茹でていただきます。

メンバーの感想は、コーヒーは「お茶のよう」、「麦茶の香りがある」、ツブラジイは「塩をかけるとうまみが増す」、「お米っぽい」、「白あんの豆みたい」とさまざま。コーヒーの焙煎方法には、まだ試行錯誤が必要のようです。メンバー皆でドングリを味わいながら、来月の計画について話し合い、今日の活動は終了しました^{*6}。



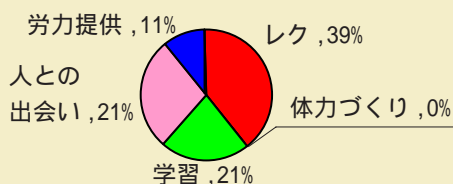
男性陣はコーヒーづくりを担当。



ツブラジイとコーヒー。

参加者の声から

参加目的は(複数回答2,N=28)?

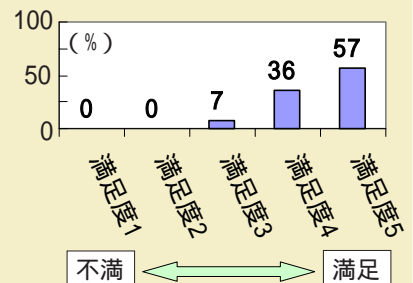


「サマスの親の気持ちになって産卵床を作った」
 「濃昼川に愛着を覚えました」
 「苗の山取りをやってみて木の見分け方を勉強しなければと思いました」

今日の目的達成度は(同左) [5段階評価]

項目	達成度	人数	(%)
レク	3	1	4
	4	5	18
	5	5	18
	4	3	11
	5	1	4
学習	3	2	7
	4	3	11
	5	1	4
	4	3	11
	5	4	14
人との出会い	3	1	4
	4	3	11
	5	4	14
	4	3	11
	5	3	11
合計		28	100

今日の満足度は(N=14)?



目的達成度4以上比率: 86%
 当日満足度4以上比率: 93%

当日はレク目的の参加者が最も多く、かつその目的では高い(4以上)達成感を感じた参加者も多かったこと、参加者のほぼ全員が高い満足感を得たことがわかります。

*5 ミズナラは皮を剥いて1~2週間多量の水につけておくとタンニンを除去できる。道立林試の実験では、温水、牛乳、焼きミョウバンなどを使用するとより短時間にてタンニンの除去が可能。

*6 当日の様子は会HP「活動記録と最近の出来事」に掲載。



北海道江別市西野幌

間伐・枝打ち・学習会

§ コープさっぽろ 植樹みどりグループ

環境問題に取り組む組合員のクラブ活動として発足し、1991年、「みどりの里親制度*1」に取り組み、森林保全・緑化に焦点をあてた「植樹みどりグループ」としての活動を開始。以来、全道規模の植樹活動、漁協女性部と連携した「お魚殖やす植樹運動」、協定林の整備などを実践。会員数20名（2004年度）。

台風通過後のトドマツ林を手入れ

今日は今年度最後のフィールド作業日です。集合場所はみらいの森*2の協定林。メンバーは毎回、入口より1km程の道のりを自然観察とウォーミングアップを兼ねて歩いて往復します。朝の打ち合わせでは、石狩管内の森林の台風被害状況、道有林施業検討会*3での議論が話題にあがります。今日は、協定林に隣接するトドマツ林（30年生、0.8ha）の間伐、枝打ち作業を行い、午後は隣の天然林で学習会を行います。

当会の間伐、枝打ちの作業経験は今年で二年目です。伐倒班は、台風18号で損傷を受け、傾いたままになっている風倒木を手鋸を使って伐倒したり、細い木や曲がった木、枯れた木などを選び、間伐をします。

枝打ち班は高枝鋸を最大に伸ばして、4mの枝打ちに取り組みます。熱中すると顔に降り落ちる鋸屑は保護眼鏡でガード。

林内作業の中でも、枝打ちは特に楽しい作業です。真っ暗で下枝が重く垂れ下がった林が、作業を終えて明るく見晴らしがよくなった時、「わあ、きれいになった」と実感します。森林づくりの楽しさは、こうした驚きとさわやかさ、とメンバーは口を揃えます。



林床に下草は殆ど見られません。



幹を傷つけないように慎重に刃を動かします。

日程

：2004年10月8日

集合・キノコ生育状況確認	10:00
挨拶・日程確認	10:10
作業開始	10:15
道具手入れ	11:50
昼食	12:00
学習会	13:00
アンケート記入・菌床搬出	14:10
移動・解散	14:30

参加者10名（会員7、スタッフ3）

当日の分担・配置

会員：枝打ち、間伐

スタッフ：

空知森づくりセンター；フィールド提供、技術指導

石狩森づくりセンター；進行、道具調達、技術指導、学習会クイズ作成

使用した主な道具・物品

手鋸、高枝鋸、バーナー、ブラシ、樹高測定器、輪尺、巻尺、回答用紙、下敷き

*1 募金と苗木育成を組みこんだ植樹活動。市民から寄付金（1口300円）の協力を得るとともに苗木を育ててもらい、3年後に苗木を回収、植栽する仕組み。

*2 隣接する国有林とともに「北海道立自然公園野幌森林公園」に指定される道有林で約55ha。このうち小班1.3haについて、当会は1999年度に道と「ボランティア活動による森林づくり協定」を締結。翌年より地拵え作業を開始し、現在までに広葉樹1,100本の植栽を終えており、下刈り、食害防除などの作業を継続（57ページ参照）。

*3 みらいの森など道有林の森林施業を検討。当会はこれに市民団体として参加し、これまでの作業経験から「風害などに強い林を育てるため植栽本数を減らした施業も大切では」と提言。

午前中の作業を終えたところで道具の手入れです。鋸刃にこびりついた松ヤニをお湯で溶かし、ブラシでこすり落とします。



お湯を沸かすためパーナーを持参。

学習会で森を見る目を養う

午後は隣の天然林で学習会です。この林は沢沿いの傾斜地であることもあり、原生的な北海道ならではの自然植生が残されています。スタッフが午前中の作業中にルート上に設置しておいた番号を目印に、クイズ形式で問題に回答します。問題は、森の生き物の痕跡や樹種の判断力、樹高や直径など測樹の感覚を試す内容で10問。

「このクロエゾマツの高さは？」

「100m じゃない？」

「え、40m もないでしょう？」

「わからない、25m」

野外の計測では、日頃より歩幅や手を広げた時の幅（一尋^{ひろ}）など自分の体のサイズを知っておき、メジャーに使うことが大きなヒントになります。回答は実際に測定器等で測定して確認します。クロエゾマツの樹高は29m、ミズナラの直径は84cmありました。

林内はカツラが甘い匂いをただよわせ、コクワは緑色の実を鈴なりにしています。豊かな森の恵みを満喫した秋の一日でした。



直径はどれくらい？

キノコの生育状況を確認

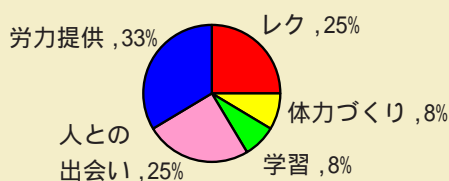
会では森の恵みを利用する活動としてキノコの植菌を行っています。今年5月にシイタケを植菌したミズナラのほだ木には、今日は残念ながら収穫は皆無でした。一方、昨年サンドイッチ方式でシラカンバやハンノキに植菌したナメコは、つやつやとしたカサをたくさん覗かせていました。このように樹木を利用して野外で栽培するキノコの風味は格別ですが、人気もまた抜群です。痕跡からどうやらメンバーに替わって収穫している輩もいるようです。

ナメコは市販のものより大きく、風味も格別。



参加者の声から

参加目的は（複数回答 2, N=12）？

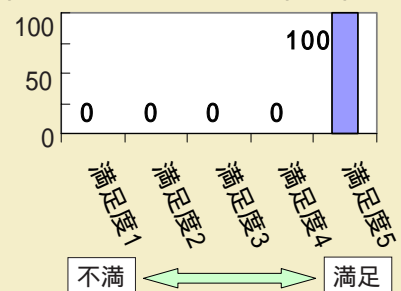


「良い汗をかいた」
「手つかずの森に入れて、良かった」

今日の目的達成度は（同左）？
[5段階評価]

項目	達成度	人数 (%)	
レク	3	1 (8)	
	4	1 (8)	
	5	1 (8)	
	合計	3 (24)	
	達成度	5 (41.7)	
体力づくり	5	1 (8)	
	合計	1 (8)	
	学習	5	1 (8)
		合計	1 (8)
		人との出会い	3
4			2 (17)
5			1 (8)
合計	5 (41.7)		
達成度	4 (33.3)		
労力提供	3	1 (8)	
	4	2 (17)	
	5	1 (8)	
	合計	4 (33.3)	
	達成度	4 (33.3)	
合計	12	100	

今日の満足度は（N=6）？



目的達成度4以上比率: 67%
当日満足度4以上比率: 100%

当日は労力提供、レク、人との出会いを目的とする参加者が多く、目的達成度5、満足度5といった、特に高いレベルの充足感を得たとする回答が多かったことがわかります。

枝打ち・工作材料採取



北海道北広島市

§ 北広島森林ボランティア「メイプル」

2004年10月、石狩森づくりセンターと北広島市の共催で行われた「森林学習会」の参加者有志26名により発足。手入れ技術の基本について学習しながら市有林、一般民有林の枝打ち、間伐、つる切りといった整備作業、森林に親しむ講習会などを目下実践中。団体名は市の木「カエデ」に由来。

2回目の枝打ち作業に挑戦

今日は、会が発足して初めての定例作業日です。南の里市有林のフィールド*1にも20cm程の雪が積もっていますが、前日には役員が事前調査と除雪を兼ねた下見を終え、活動の実施を決定しました。今日は、枝打ち作業と翌月に開催予定の「かんじきづくり講習会」でかんじきの材料となるコクワ(サルナシ)のツルの採取に取り組みます。

雪に覆われた林道に残った足跡をそっくりたどりながらフィールドに到着。枝打ち作業は、先月の北広島市主催の学習会を含め、メンバーにとって2回目の経験です。

石狩森づくりセンター職員の説明により「樹皮等を傷つけないように、鋸を幹に平行に、平らに引いて枝を落とすこと」、「太い枝は一度枝の下から鋸を入れておくと、樹皮が剥がれず巻き込みもしやすくなること」といった留意事項を復習。一方、メンバーからは、高枝鋸の扱い方、除伐と間伐の違い、今日作業を仕上げる範囲などについて活発に質問が出てきます。

準備体操をして体を温め、筋肉をほぐしたところで、各自、鋸や高枝鋸を手元に作業に取りかかります。



作業前の準備体操。

日程

：2004年12月12日

集合・移動	10:05
挨拶・日程確認・体操	10:15
作業開始	10:30
コクワ運搬・移動	12:00
昼食	12:30
移動	13:10
コクワ採取	13:15
コクワ運搬・移動	13:40
アンケート記入	13:50
コクワ梱包・会員宅へ運搬	14:00
解散	14:40

参加者13名（会員11、スタッフ2）

当日の分担・配置

会員：枝打ち、コクワ採取・運搬
スタッフ：石狩森づくりセンター；進行支援、道具調達、技術指導

使用した主な道具、物品

鋸、高枝鋸、梱包用ビニル紐

森林ボランティア活動のイメージをつかむ：導入プログラム

当会の立ち上げに関連し、定例会開催までに以下の学習会、研修が実施されました。これらは会員や加入希望者が活動に具体的なイメージを持つことを目的に行われ、参加者の多くから高い評価*2が得られました。

市内の森林視察、施業解説[森林学習会]: 38名参加
「森林の取り扱いの違いが生育に大きく影響することがよくわかった」
(屋内)森林づくりの基礎講義、森林ボランティア2団体による事例報告
(台風18号被害により作業体験中止)[同上]: 28名参加
枝打ち作業体験・枝打ちロボット実演[同上]: 22名参加
「地元の山でいい汗を流す事ができた」、「樹の床屋になった気がした」
森林ボランティア活動視察、樹種学習[当会研修]: 会員9名参加
「札幌ウッドーズ会員のプロの様な動きに感心した」



枝打ちロボット実演()。

*1 アカエゾマツ42年生、1.0ha。

*2 道立林試実施アンケートでは当日の満足度(5段階評価)を4以上とする回答(%)が 66、38、95、89を占めた。なお本文中「」内は参加者の感想を転載。

フィールドのアカエゾマツ林は、植栽後、一度も手入れがされていません。林内は暗くツルが絡まり、張り出した下枝で歩行もままならない状態です。手入れを必要とする木は、まだ一面にひろがっています。黙々と鋸を動かしていると、寒さを忘れ、逆に汗がにじんできます。



徐々に見通しが良くなります。

講習会に向けて、かんじき材料を採取

枝打ちと併行してつる切りをすすめ、コクワを選んで採取します。「かんじきづくり講習会」は市民の参加を募っており、会のPRや会員募集の目的もあります。講習会を成功させるには、まずは定員50人分の材料をしっかりと確保しなくてはなりません。

昼食を挟み、午後は隣接するトドマツ林でさらにコクワのツルを採取します。コクワを地際から切断して引っ張りますが、枝に絡まったツルは簡単には外れません。しかし、そういうときこそチームワーク。数人がかりでかけ声とともに、体重をかけてカーブツルを引き寄せます。うまくツルが枝から外れると、尻もちとともに歓声があがり、メンバーは童心に返ったようです。



「あの枝に巻き付いてるね」
「よっしゃ、まかせて」

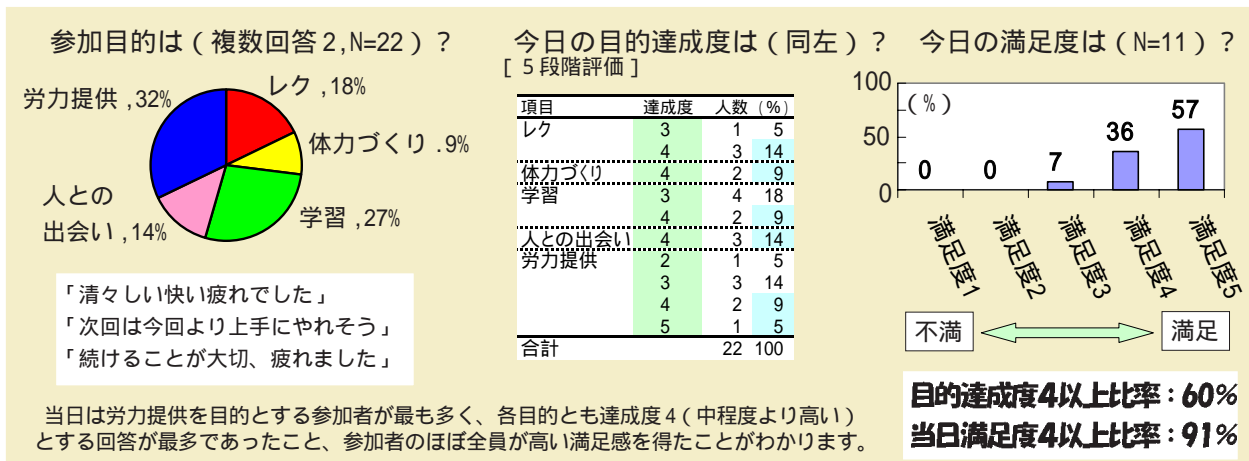
コクワは手分けして車まで運搬して選別し、同心円状に束ねて梱包します。コクワは直径2cm程のものがかんじき用には最適です。今日の作業でなんとか必要量を集めることができたようです。

材料は当日まで事務局宅の庭先に保管することで了解。車での運搬、メンバー皆での搬出を終えて作業完了です。メンバーの親睦も深まり、第1回の定例会は無事終了しました*3。



集めた材料をビニル紐で梱包。

参加者の声から



*3 この後、翌年1/30に当会が開催した「かんじきづくり講習会」には、一般市民25名、会員15名が参加。この時、一般参加者に対して「入会のおさそい」をしたところ、9名の申し出があり、会員は35名に増加。

除伐・間伐・枝打ち

§ 札幌南高等学校 学校林作業

1911年に生徒の修練や生徒会基金の蓄積等の目的で取得された学校林を手入れする札幌南高の学校行事。取得当初から毎年1回、生徒が植栽、下刈り、枝打ち等の作業を継続。2003年度より、市民ボランティアや森林組合、行政等、複数組織のメンバーを指導者に起用し、地域と連携して行事を行う現在の形へと移行¹⁾。



北海道札幌市清田区

地域の連携で学校行事をサポート

夏休み明けの8月最終週、札幌は見事な快晴に恵まれました。到着したグループ指導スタッフは所属組織ごとに集まり、フィールド^{*2}の全体地図で自分の担当班と伐区を確認します。伐区は、生徒の到着前に踏査して、林床の状態やハチやウルシなどの危険の有無、作業の対象木などを把握しておきます。

今日の行事は1年生の宿泊研修の日程の一部であり、作業体験は正味50分間。わずかな時間ですが、こうした林内作業は道内屈指の進学校、都市部育ちの生徒達にとって、ほぼ初めての体験です。一方、市民スタッフ側も、例えばいしかり森林ボランティア「クマゲラ」では今回12名が指導者役を務めますが、殆どの会員にとって、こうした指導は初の体験です。

林道に到着した生徒達をスタッフの代表が誘導します。2班合同の説明では、ケガへの注意、道具の扱い方、枝打ちや間伐の目的についての解説と作業の実演があります。

班に分かれて作業開始です。配布された枝打鋸の大きな刃に「おーっ」と低い歓声があがります。生徒達は早速高枝打ちに挑戦しますが、懸命に鋸を動かすものの、カシャ、カシャと軽い音がしてなかなか刃が枝に食い込んでいかないようです。しかし、スタッフの「もっと刃を長く使って」、「鋸は引くときにグッと力を入れてみて」といったアドバイスを聞いて、鋸の音が変化。ジャリッ、ジャリッという音とともに枝がどさりと落ちました。「上手、上手！」スタッフの言葉に、生徒に笑顔が広がります。



節のある板とない板を使って枝打ちの目的を解説。



力の入れ方を工夫します。

日程 : 2005年8月24日

道具搬入	7:00
スタッフ集合	8:30
生徒到着・移動	8:50
班活動開始・挨拶・説明	9:20
作業開始	9:30
作業終了・生徒移動	10:20
後かたづけ	10:50
スタッフ移動・昼食・スタッフ紹介	11:10
自由解散	11:30

参加者 390名 (生徒 320、スタッフ70)

当日までの準備

道具調達、指導者確保、各組織間の連絡、作業道草刈、道具運搬、伐区設定、選木

当日の分担・配置

生徒(1班10名、32班): 除・間伐、枝打ち
スタッフ: 14組織・機関^{*3}
グループ指導(64名); 担当班活動進行、安全・技術指導、道具配布・回収
巡回指導(6名); 指導者支援、スタッフ統括

使用した主な道具、物品

鋸・高枝鋸(1班11本) \ \ ムメツク(人数分)

* 1 (岡ら, 2005)

* 2 今回行事で取り組む林分は4小班約2ha。トドマツ、カラマツ44～56年生。32に区画し、1伐区は約600m²。

* 3 いしかり森林ボランティア「クマゲラ」、北広島森林ボランティア「メイプル」、間伐ボランティア「札幌カデイズ」グループ さつぼろ植樹・みどりグループ、当別森林ボランティア「シカガ」、藻岩山きのご観察会、札幌市森林組合、札幌南高教職員、札幌南高等学校林理事、札幌市みどりの保全課、石狩・空知森づくりセンター、石狩支庁経済部林務課、道庁水産林務部森林活用グループ。

間伐では、直径14cm、高さ12m程のトドマツを伐倒します。「生木なのでとても重く、倒れてきたときに誤ってぶつくと大きなケガになるよ」とスタッフが生徒に注意を促します

生徒は次々と伐倒を交代しますが、なかなか切り口は広がりません。簡単そうに見えた受け口の斜め切りも、実際にやってみると鋸の角度を45度に保つのに四苦八苦です。「もっと刃を斜めにして、」
「角度が緩いと切る長さが増えるよ」とスタッフが声をかけます。

追い口切りでは「私もやってみたい」と学校の先生も鋸を交代。「先生頑張れー、先生頑張れー！」と生徒達の声援が起こります。「よーし、倒れるよー、離れてー！」

たくさんのメンバーの交代で鋸を入れられた木をスタッフと男子生徒が揺すりますが、枝が隣の木に引っかかって倒れません。「それでは」とスタッフが追い口に鋸を入れ、ツルを切り離れたところで、「せーのっ」とかけ声をかけて、幹の下部を伐倒の反対方向へと引っ張ります。

「もういい、もういい」

無我夢中で幹を抱えて動く男子生徒をスタッフが引き留めます。ズーンという鈍い音。

「わー、倒れたー！」自然に拍手が湧き起こります。

倒れた木は枝を払い、2mの長さに玉切りをします。興奮気味だった生徒達もおしゃべりを忘れ、辺りには鋸を動かすシャリ、シャリという音が響きます。

伐区内の枝打ちと2本程の伐倒を終えたところで、時間はほぼ終了。道具を回収してお別れの挨拶です。「みんなで協力して1つの作業をすると仲間になれるよね」とスタッフ。生徒達からは「思ったより楽しかった」、「玉切りは職人のような気分になった」、「疲れたー」との感想も漏れます。生徒、市民スタッフ共々、心に残る思い出ができたようです。



伐倒用の鋸を使うのは初めて。



「せーのっ」



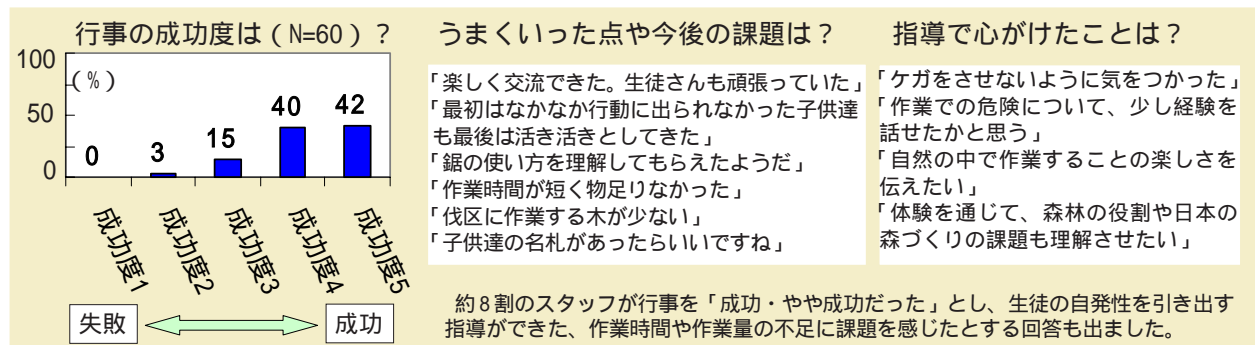
2m毎に玉切り。

学校林の活用：生徒が自然に触れる接点に

本校の学校林は、全日制、定時制の総合学習の学習テーマの1つとなっており、森林の働きや日本の林業の現状・学校林の歴史や植生等を学ぶ、この行事の事前・事後学習も行なわれています。その他、年2回、校内やOBの希望者を募り、山菜やキノコを楽しむ散策会が開催されています。全道でも学校林を持つ高校は少数ですが、このように本校では、学校林を生徒が自然に触れる接点と位置づけ、環境教育等の用途での活用にも力を入れています*1。



スタッフの声から





北海道滝川市江部乙

草刈り・散策路づくり・炭焼き

§ 空知森林サポーターの会

2005年4月、空知森づくりセンター主催の「森林サポーター養成講座*1」の受講生有志11名によって発足。道有林「江部乙交流の森*2」をフィールドに、当地を森林に学び親しむ場、森林づくりを介した交流の場として整備をすすめ、地域の青少年を対象とした森林教室、野草や野鳥の調査などを実践中。

ワークショップの開催を準備

交流の森では7月20日に「げんきの森ワークショップ*3」が開催され、地元江部乙の小・中学校の児童・生徒が炭焼きの体験に訪れます。今回の活動では、当会は空知森づくりセンターと連携して、この開催の準備にあたり、子ども達への指導を支援します。炭焼き作業は20～21日にかけて行い、20日の夕刻には会員と森づくりセンター職員との交流会も企画しました。

20日当日は、まず夏期に継続して取り組んできた草刈りを仕上げ、ワークショップの会場となる広場をきれいな状態に整えます。草は繁茂状態の回復を妨げるため、なるべく地際から刈りとることを確認しあいます。野外学習用の椅子とテーブルも移動させて、隠れた草も丹念に刈り取ります。作業をしていると広場の木々の幹にはアブラゼミの抜け殻が見つかり、ヤマゲワやエゾヤマザクラの実が黒く色づいているのに気づきます。

午後からは皆で炭材づくりです。材は窯の大きさに合わせて80cmに切りそろえ、4つ割りにします。昔懐かしい薪割り作業ですが、マサカリの刃を狙い通りに幹の中央に落とすには結構な技術が必要です。「こりゃあ、^{たぐみ}匠の世界だね」、「節がある材は難しい」、「小口に既に入っている裂け目に刃を当てると割れやすいよ」といった声があがります。

メンバーが薪割りに四苦八苦しているうちに、ワークショップにやってきた子ども達の声が聞こえてきました。



刈った草は一輪車で搬出。



昔懐かしい薪割り作業。

日程 : 2005年7月20日～21日

集合	20日 9:00
日程・作業内容確認	9:30
草刈り・炭焼き窯補修	10:00
ミーティング	11:20
昼食	12:00
炭材づくり	13:10
げんきの森ワークショップ：江部乙小	13:30
散策路づくり・買い出し	14:00
げんきの森ワークショップ：江部乙中	15:30
立て込み・燃材準備	16:30
窯点火・交流会	17:00
窯密閉	21日 8:00
解散	10:00

参加者88名
(会員6、スタッフ6、児童21、生徒50、引率5)

当日の分担・配置

会員：草刈り、散策路づくり、炭焼き準備、児童・生徒指導

スタッフ：空知森づくりセンター；日程確認、ワークショップ進行、炭焼き準備、炭焼き技術指導

使用した主な道具・物品

刈り払い機、鎌、一輪車、マサカリ、チェーンソー、缶容器、アルミホイール、針金、鑑賞炭素材、燃材、炭材

*1 自立した森林づくり活動や森林愛護の核となる地域リーダーの育成を目的とする。空知森づくりセンターでは、受講生34名を対象に、苗畑づくりや育苗、植栽といった実践活動、キノコ植菌、炭焼き技術等を学習する講座を3年間開講。2004年度末には20名が当講座を修了した。

*2 43～46年生のカラマツ疎林で約6ha。従来より採種圃として利用される。今回の活動の中心となった広場は当フィールド内の「苗畑・キノコ・炭焼きゾーン」に該当し、約0.1ha。

*3 「げんきの森」で行われる森の体験活動や森遊びの達人との交流会。「げんきの森」は、地域の児童・生徒が体験活動の場として活用するために、各地の森づくりセンターが道内市町村に設定した森林。「地域活動」「地域交流」をキーワードに当地を活用し、子ども達が森林体験学習に取り組む環境づくりを進める。

鑑賞炭づくりと炭材の立て込みを指導

江部乙小学校の3年生が鑑賞炭の素材が入った缶を手元に到着です。素材は大小の松ぼっくりやドングリ、カボチャなど、缶は菓子容器などを各自が工夫して持参しました。グループに分かれて、素材をアルミホイルで包んで缶に入れ、蓋をした缶に針金を巻く作業に取り組みます。サポーター会員は各テーブルで作業手順を指導します。作業しながら子ども達は森の生き物に興味津々。スタッフが午前中にフィールドで見つけておいたセミの抜け殻に「すごーい」「服にくっつくよ」「見せて、見せて！」と歓声が上がります。生きたセミ、クワガタには黒山の人だかり、「初めて見たー!」、「逃げる、逃げるー!」と大歓声があがります。

缶の準備が整ったら、窯へ炭材を詰め(立て込み)ます。子ども達はまず窯の内部を観察し、次に窯内部に入ったスタッフに炭材と缶を手渡します。初めて見る炭窯と「全部土を固めて作ったんだよ」「かまどで木を燃やすと800 位になる」といった解説に、「まじ、すげー」との声があがります。ワークショップでの体験は炭材の立て込みまでで、約1週間後にできあがる鑑賞炭は、後日スタッフが学校に届けます。終わりの挨拶では「炭焼き期間中は窯が非常に高温になっているので、決して近づかないでください」といった注意があります。

20日はこの後、江部乙中学校の1年生と工芸部の生徒達も交流の森を訪れ、同様の内容でワークショップが開催されました。

ワークショップ終了後は、いよいよ点火です。炭窯の通風口、煙道口の密閉は21日早朝を予定しており、今晚はスタッフが泊まり込みで火の番に当たります。火の調整をしながら、メンバーは焼き肉交流会で親睦を深めます。会での炭焼き経験は2回目、今回新しく補強された炭窯にメンバーの期待が集まる中、静かに夜が更けていきます。



素材は缶の中で蒸し焼きになります。



窯の中はちょっと怖そう。



通風口を残して焚き口を塞ぎます(21日1時頃撮影)

散策路づくり：利用者が森と触れ合う接点に

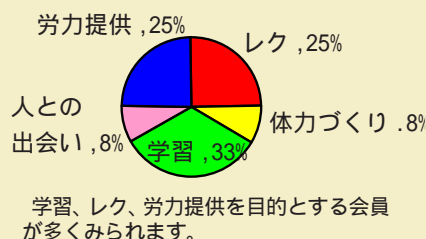
今期当会が重点的に取り組んでいるのがフィールドの散策路づくりです。散策路は会の活動の拠点となる広場と昨年道事業で完成したバリアフリー散策路をつなぐ約200mで、ルートを選定、ササの刈り払いから会手作りで作業を進めています。ルートは沢地形をまたいでおり、階段や橋梁部には廃材をリサイクルして使用しています。土木工事の経験者が基礎を担当し、メンバー皆で土木作業に汗を流しています。会では散策路を、「交流の森」を訪れた人が森と触れ合う接点と位置づけ、将来的にはルートを延長し、フィールド内のミズバショウの群生地まで周遊できる簡易な木道の設置も手がけたいと意気込んでいます。



階段づくり(2005年9月)。

会員の声から

参加目的は(複数回答2,N=12)?



活動への意気込みは?

「体力に応じて参加します」
 「森は全ての生命の母。大切にしなければ。あとは体力」
 「樹木とのふれあいを多くしたい。そのためには森の手入れは大事にしたい」
 「会の活動人数が不足している」

「交流の森」での活動の方向は?

「『交流の森』は、昆虫や鳥、キノコなども豊かです。こうした環境を活かしながら、イベントなどを企画したり、そのために必要な整備を進める計画です。特に子ども達には期待しており、森林体験を通じて、誰もがお世話になる『水』と『森』の関わりについて伝えていくことが、最重要課題と思っています(会長談)」

施設整備・草刈り・看板補修



北海道空知郡南富良野町

§ レディース100年の森 林業グループ

1991年、南富良野町森林組合が地元在住の女性を条件に公募した山林分譲への応募者を組織化して発足。北海道初の女性林業研究グループ。所有林整備や森林教育、地域交流など「山と森と人をつなぐ」をテーマに活動を展開。会員数10名(2005年度)

交流会に向けて環境整備

フィールド「レディース100年の森^{*1}」は、グループ共通の実習林として、会員皆で選木、枝打ち、遊歩道整備といった手入れ作業を進めています。その拠点施設となるのがログハウス「可楽待(からまつ)^{*2}」。室内学習や他団体との交流の場として利用するほか、作業の道具を収納しておくこともできます。今日は、翌週の十勝林業グループとの交流会に先だて、この「可楽待」周辺の整備を中心に作業を行います。

清掃班は、ログハウス屋内の埃を掃き清め、デッキ部分に厚く積もったカラマツの落葉を掃き出します。

清掃は定期的に行っていますが、1年間の埃は結構なもの、マスクをして念入りに取り除きます。

草刈班は、鎌で広場周辺の草刈りに励みます。あわせて、カラマツの落枝を整理します。



ログハウス「可楽待(からまつ)」。



広場から伸びる散策路を整備。

日程 : 2005年7月14日

日程・作業内容確認	10:00
移動	10:10
現地到着・作業開始	10:15
作業終了・昼食準備	11:30
昼食交流会	12:10
アンケート記入	13:10
後かたづけ	13:30
移動・解散	14:00

参加者13名(会員6、スタッフ4、ゲスト3)

当日の分担・配置

会員：清掃、草刈、看板補修、昼食準備
スタッフ：

南富良野町森林組合；事務局、日程確認
上川南部森づくりセンター；道具調達、技術指導

使用した主な道具・物品

鎌、チェーンソー、清掃具(箒等)、ガンタッカー、高枝打ち用梯子、間伐材

地域交流

「森林を育て、水資源や環境を守る」ことを共通のテーマに、当会は下流域の団体との共同作業に取り組み、交流を深めています。近年は、南富良野町を水源地とする滝川市の森林ボランティア「緑とエコ サポーターネット」との植樹、鶴川漁協女性部との「お魚殖やす植樹運動」等を実施しています。また、道内外の林業グループとの相互訪問を継続し、各地の取り組みについて学びあい、親睦を深めています。加えて各地の森林関連のフォーラムに出席して事例発表を行うなど、森林・林業の大切さと当会の実践を広く発信しています。これらは山と森と人をつなぐ「架け橋」の活動として、活動の1つの柱となっています。



愛媛県松山市ひめゆり林業グループとの交流(2000年度)

*1 34、37年生のカラマツ林12.6ha。10区画に分割され、会員は各自の所有林(1区画1~2ha)を持つ(56ページ参照)

*2 地元のカラマツ材を使用。「カラマツ100年の大計の可能性を楽しく待つ」との意味を込めて命名。

チェーンソー担当は、ストックしてある防腐処理をした間伐材からドンコロをつくり、次々と会食用の椅子に仕上げます。枝に残った球果と幹の曲がりの風合いが面白い間伐材は、公共施設へのガーデニング*3で使用する、フラワーポットの支柱に使いそうです。

会発足当時は直径15cm程度だったフィールドのカラマツも、15年間の手入れを経て、現在は27cm程度までに成長しています。

昨年秋は、林内に各メンバーの所有林の境界を示す看板を設置。看板はトルペイントで作成した手作り作品です。冬を越して雪の重みなどで外れてしまった一部の看板を、補強してつけ直します。

林内には広葉樹が侵入していますが、生き物の豊かな森づくりを行うため、間伐時にはそうした侵入木を残す施業も試みています。山菜も豊かに見られ、アキタブキをメンバーで採取して漬け物用に試験的に出荷した経験もあります。



ガーデニングのイメージがふくらみます。



看板の設置で所有林への愛着も増してきます。

ジンギスカンを囲んで昼食会

例年、草刈り作業終了後のお楽しみは、ジンギスカン交流会です。講習会など行事の開催でお世話になっている町役場、森林の手入れの技術指導にあたる上川南部森づくりセンター、グループの事務局を務める町森林組合といった関係者を招待し、親睦を深めます。

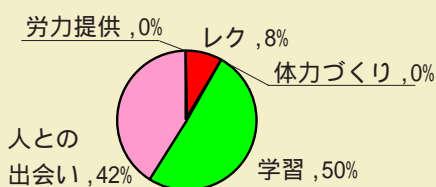
「黄金色の秋のカラマツ林を癒しの森に」、「大切に大径木に育て、将来は銘木づくりに取り組もう」といった「レディース100年の森」を活用するアイデアも飛び出します。女性の夢と堅実さを活かした当会の森づくりは、林業に新しい風を呼び込んでくれそうです。



移動式炭窯で焼いた炭を使用。

参加者の声から

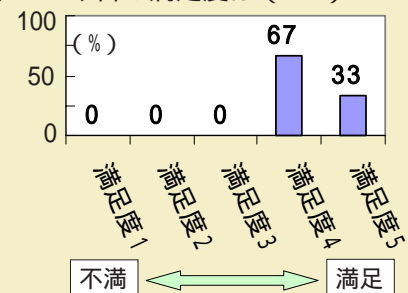
参加目的は（複数回答2,N=12）？



今日の目的達成度は（同左）？
〔5段階評価〕

項目	達成度	人数	(%)
レクリエーション	3	1	8
学習	3	3	25
	4	3	25
人との出会い	3	2	17
	4	1	8
合計	5	2	17
		12	100

今日の満足度は（N=6）？



「皆で山に親しみ、いつまでも仲良く交流したい」

「生物多様性保全や森林に生きる動物と人間のルールなども今後考えていきたい」

「いろいろ指導を受けて、自分の森林をより一層良くしていきたい」

当日は学習、人との出会いを目的とする参加者が多く、それらの目的では高い(4以上)達成感を感じた参加者も多かったこと、参加者全員が高い満足感を得たことがわかります。

目的達成度4以上比率：50%
当日満足度4以上比率：100%

*3 樹木や花を活かしたまちづくりを学んだ2000年度の海外研修での成果を地域へ普及。町民の好評を得たことで、ガーデニングの取り組みは、町商工会など他組織にも波及した。当会では町民対象のガーデニング講習会も企画。